

第1章 新地域ビジョン策定の趣旨

淡路県民局では、淡路地域の将来のあるべき姿とその実現のために地域住民が主体となって取り組む方向性を示した「淡路地域ビジョン」を平成13年2月に策定した。その後、社会の変化に対応するべく平成23年12月に改訂を行い、淡路地域ビジョン委員会を中心に住民の「参画と協働」のもと、ビジョンの実現に向けて様々な取組を実施してきた。

淡路地域ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過する中で、深刻な少子高齢・人口減少社会、技術革新の急速な進歩など社会が大きく変化している。

これらの変化を見据えて、今後の淡路地域づくりの方向性を県民とともに考え直し、2050年を展望した新たな将来ビジョンを策定する。

[従前の淡路地域ビジョンの概要]

当初 (2001年2月策定) 展望年次: 2030年頃

【目標】人と自然の豊かな調和を目指す環境立島「公園島淡路」

【主な取組】

- ・あわじ菜の花エコプロジェクトの推進
- ・淡路島「地域学習」の推進
- ・安全・安心な農林水産物の生産とブランド化の推進
- ・「食の宝島」大作戦の展開
- ・あわじオープンガーデンの開催
- ・淡路島フェスティバル～エンデ・ワールド～の開催

改訂 (2011年12月改訂) 展望年次: 2040年頃

【目標】環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきざく“公園島”へ～

【主な取組】

- ・障害者スポーツの推進
- ・淡路島ビーチクリーンの開催
- ・里山セミナーの開催
- ・渦潮の世界遺産登録推進活動の展開
- ・くとうみ夢フォーラムの開催

第1章 新地域ビジョン策定の趣旨

淡路県民局では、淡路地域の将来のあるべき姿とその実現のために地域住民が主体となって取り組む方向性を示した「淡路地域ビジョン」を平成13年2月に策定した。その後、社会の変化に対応するべく平成23年12月に改訂を行い、淡路地域ビジョン委員会を中心に住民の「参画と協働」のもと、ビジョンの実現に向けて様々な取組を実施してきた。

淡路地域ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過する中で、深刻な少子高齢・人口減少社会、技術革新の急速な進歩など社会が大きく変化している。

これらの変化を見据えて、今後の淡路地域づくりの方向性を県民とともに考え直し、2050年を展望した新たな将来ビジョンを策定する。

[従前の淡路地域ビジョンの概要]

当初 (2001年2月策定) 展望年次: 2030年頃

【目標】人と自然の豊かな調和を目指す環境立島「公園島淡路」

【主な取組】

- ・あわじ菜の花エコプロジェクトの推進
- ・淡路島「地域学習」の推進
- ・安全・安心な農林水産物の生産とブランド化の推進
- ・「食の宝島」大作戦の展開
- ・あわじオープンガーデンの開催
- ・淡路島フェスティバル～エンデ・ワールド～の開催

改訂 (2011年12月改訂) 展望年次: 2040年頃

【目標】環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきざく“公園島”へ～

【主な取組】

- ・障害者スポーツの推進
- ・淡路島ビーチクリーンの開催
- ・里山セミナーの開催
- ・渦潮の世界遺産登録推進活動の展開
- ・くとうみ夢フォーラムの開催

第2章 社会潮流

1 人口減少・超高齢化

(1) 総人口の減少

本格的な人口減少時代に突入。推計によると、2050年の県人口は2015年に比べて130万人減の423万人となる。

合計特殊出生率が人口の維持に必要な水準(2.07)を下回る限り、今後も長期にわたり減少。

(2) 人口の偏在化

地球規模で進む「都市化」の反面、地方の「無人化」が進んでいる。一方で、コロナ禍を契機に東京一極集中から地方回帰への変化の兆しが見られる。

(3) 超高齢化

少子化と平均寿命の延伸により人口のますます多くを高齢者が占めるようになる。健康志向の高まりや医療技術の進展によりさらに寿命が延び、人生100年時代が到来する。

2 自然の脅威

(1) 気候変動

地球規模で温暖化が進行。地球温暖化に伴う気候変動は、自然災害のリスクの増大、自然生態系の変化、人々の生活リスクの増加など、人類の生存への最大のリスクとなる可能性がある。

(2) 災害の危機

被害が激甚化している台風や集中豪雨、新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症など未知の感染症、さらには、今後30年以内に高い確率で発生が予測されている南海トラフ地震など、今後も私たちの暮らしは常に自然災害の脅威と隣り合わせにある。

3 テクノロジーの進化

(1) 未来のテクノロジー

ICT技術の目覚ましい進歩により、自動運転の普及やドローンでの移動、AIやロボット技術の応用など、未来のテクノロジーが社会や暮らしのあり方を大きく変える。

(2) データの最大活用

IoTが幅広い分野に拡大し、あらゆるモノがネットでつながる社会になっている。今後もAIやIoT等のデジタル技術は急速に進化し、地域の課題解決や一人ひとりに適したサービスの提供が実現する。

4 世界の成長と一体化

(1) 大きくなる世界

アジア、アフリカを中心に今後も成長が続き、人口も経済もまだまだ発展する国々がある。一方で、“GAF A”のような世界を代表するプラットフォームの前では日本が誇る製造業の存在は小さい。

今後、世界との結びつきを深めていくことが、ますます求められる時代になる。

第2章 社会潮流

1 人口減少・超高齢化

(1) 総人口の減少

本格的な人口減少時代に突入。推計によると、2050年の県人口は2015年に比べて130万人減の423万人となる。

合計特殊出生率が人口の維持に必要な水準(2.07)を下回る限り、今後も長期にわたり減少。

(2) 人口の偏在化

日本の総人口が減少する中で、都市部の人口集中と地方の過疎化が進んできた。一方で、コロナ禍を契機に東京一極集中から地方回帰への変化の兆しが見られる。

(3) 超高齢化

少子化と平均寿命の延伸により人口のますます多くを高齢者が占めるようになる。健康志向の高まりや医療技術の進展によりさらに寿命が延び、人生100年時代が到来する。

2 自然の脅威

(1) 気候変動

地球規模で温暖化が進行。地球温暖化に伴う気候変動は、自然災害のリスクの増大、自然生態系の変化、人々の生活リスクの増加など、人類の生存への最大のリスクとなる可能性がある。

(2) 災害の危機

被害が激甚化している台風や集中豪雨、新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症など未知の感染症、さらには、今後30年以内に高い確率で発生が予測されている南海トラフ地震など、今後も私たちの暮らしは常に自然災害の脅威と隣り合わせにある。

3 テクノロジーの進化

(1) 未来のテクノロジー

ICTの目覚ましい進歩により、自動運転の普及やドローンでの移動、AIやロボット技術の応用などにみられるように、未来のテクノロジーが社会や暮らしのあり方を大きく変える。

(2) データの最大活用

IoTが幅広い分野に拡大し、あらゆるモノがネットでつながる社会になっている。今後もAIやIoT等のデジタル技術は急速に進化し、地域の課題解決や一人ひとりに適したサービスの提供が実現する。

4 世界の成長と一体化

(1) 大きくなる世界

世界では、アジアやアフリカを中心に人口も経済もまだまだ成長が見込まれる国々がある。今後、活躍の場は世界中に広がり、ますます世界との結びつきを深めていくことが求められる時代となる。

(2) 一つになる世界

インターネットで世界が一つに結ばれ、情報の流通が勢いを増している。スマートフォンにより世界中の人々がインターネットで結ばれる時代が来る。

5 経済構造の変容

(1) デジタル化の進展

経済のデジタル化が進み、企業のビジネスモデルに大きな変化をもたらしている。ICTの発展によりあらゆる情報がデジタル化され、情報のやりとりのコストがほぼゼロになる。また、経済のデジタル化は新たな価値を創出し、時間・場所・規模の制約を超えて様々な経済活動が可能になる。

(2) 資本主義のゆくえ

新自由主義や株主資本主義の台頭のもと経済格差が拡大する中で、社会貢献を使命とする公益資本主義の潮流が生まれている。また、各人が自由で平等な取引を行う共有型経済や、労働者たちが共同で出資・経営し働く労働者協同組合（ワーカーズコープ）も広がりつつある。

6 価値観・行動の変化

(1) サステナブル志向の台頭

将来世代や地球の未来に対する責任を背景に、「SDGs」が世界の共通言語に。持続可能性を重視する価値観やライフスタイルが広がりを見せている。

(2) 固定から流動へ

テレワークの浸透などにより、住む場所や働く場所の制約が消えつつある。都市と地方を往来する二地域居住はコロナ禍によってさらに人気のスタイルとなっている。

また、一つの場所に住むという概念が崩れワーケーションやノマドワークなどの移動しながら働くスタイルも広がっている。

(2) 一つになる世界

インターネットで世界が一つに結ばれ、情報の流通が勢いを増している。スマートフォン等により世界中の人々がインターネットで結ばれる時代が来る。

5 経済構造の変容

(1) デジタル化の進展

経済のデジタル化が進み、企業のビジネスモデルに大きな変化をもたらしている。ICTの発展によりあらゆる情報がデジタル化され、時間・場所・規模の制約を超えて様々な経済活動が可能になる。

(2) **新たな経済のかたち**

資本主義による格差の拡大が顕在化する中で、社会への貢献を使命とする「公益資本主義」や、個人がインターネットを介して物や空間など様々なサービスを共有する「共有型経済（シェアリングエコノミー）」など新たな経済のかたちに向けた動きが広がっている。

6 価値観・行動の変化

(1) **価値観の多様性**

持続可能でよりよい世界を目指す目標である「SDGs」が世界の共通言語となったように、持続可能性の重視、多様性の尊重など新たな価値観やライフスタイルが広がりを見せている。

(2) 固定から流動へ

テレワークの浸透などにより、住む場所や働く場所の制約が消えつつある。都市と地方を往来する二地域居住はコロナ禍によってさらに人気のスタイルとなっている。

また、一つの場所に住むという概念が崩れワーケーションやノマドワークなどの移動しながら働くスタイルも広がっている。

第3章 淡路地域の現状と課題

【人口減少・少子高齢化】

淡路地域の人口は1947年をピークに減少。2021年4月はピーク時の半数近くまで減少し、2050年にはさらに半数近くまで減少すると推測。

一方で、淡路地域の人口に占める高齢者人口（65歳以上）の割合は増加し続け、2020年は37.8%、2050年には49.7%と人口の約半数を高齢者が占めると推測。

淡路島の人口推移

1947年 (226,890人)	※国勢調査
2021年 (125,553人)	※兵庫県推計人口
2050年 (70,016人)	※兵庫県推計人口

【若者の流出】

淡路地域は高等教育や大学の選択肢が少なく、また、都市部に近いといった要因から島外へ進学する若者が増加。教育終了後も島内での就職の選択肢が少なく淡路島に戻ってこない現状がある。

高校生徒数 : H22 (3,762人) → R2 (2,862人)	△24%
大学進学率 : H30 (49.5%)	

【空き家の増加】

人口減少、高齢化を背景に空き家が増加。活用されず放置されている空き家は、防災、衛生、景観上の悪影響を及ぼしている。

住宅・土地統計調査(H30)による空き家率
【県全体】13.4% 【地域別】①淡路(23.2%) ②但馬(17.4%) ③丹波(16.4%)

【コミュニティの衰退】

人口減少、高齢化と人口流出に伴い地域コミュニティが衰退。子ども会や町内会の行事もなくなり人のつながりが希薄になっている。また、小規模集落の数も増加している。

淡路管内の小規模集落数
H20:53集落 R1:105集落

【伝統芸能・文化の後継者不足】

約500年の歴史を誇る淡路人形浄瑠璃をはじめとする伝統芸能や文化、祭りが数多くあるが、少子化や若者の島外流出により後継者・担い手の不足や規模が縮小。

【教育】

少子化に伴う学校の統廃合や学校行事、クラブ活動などの規模が縮小。教育やクラブ活動の選択肢が少なく島外の高校へ進学する生徒が増加。

第3章 淡路地域の現状と課題

【人口減少・少子高齢化】

淡路地域の人口は1947年をピークに減少。2021年4月にはピーク時の半数近くまで減少し、2050年にはさらに半数近くまで減少すると推計されている一方で、高齢者人口(65歳以上)が占める割合は、2020年には37.8%に、2050年には49.7%になると推計されている。

淡路島の人口推移

1947年 (226,890人)	※国勢調査
2021年 (126,524人)	※兵庫県推計人口(R3.7.1時点)
2050年 (70,016人)	※兵庫県将来推計人口

【若者の流出】

淡路地域は、大学や専門学校など高等教育において学ぶ場が限られており、島外へ進学する若者が多い。また、高校や大学卒業を機に都市部に転出した若者の島内に戻る割合が、近年減少傾向にある。

高校生徒数 : H22 (3,762人) → R2 (2,862人)	△24%
大学進学率 : R2 (49.9%)	
※学校基本調査	

【空き家の増加】

人口減少や核家族化を背景に空き家が増加。活用されず放置されている空き家は、防災、衛生、景観上の悪影響を及ぼしている。

住宅・土地統計調査(H30)による空き家率
【県全体】13.4% 【地域別】①淡路(23.2%) ②但馬(17.4%) ③丹波(16.4%)

【コミュニティの衰退】

人口減少、高齢化と人口流出に伴い地域コミュニティが衰退。子ども会や町内会の行事も出来なくなりつつあり、人のつながりが希薄になっている。また、小規模集落の数も増加している。

淡路管内の小規模集落数
H20:53集落 R1:105集落

【伝統芸能・文化の後継者不足】

約500年の歴史を誇る淡路人形浄瑠璃をはじめとする伝統芸能や文化、祭りが数多くあるが、少子化や若者の島外流出により後継者・担い手の不足や規模が縮小。

【教育】

少子化に伴う学校の統廃合や学校行事、クラブ活動などの規模が縮小。教育やクラブ活動の選択肢が少なく島外の高校へ進学する生徒が増加傾向にある。

【自然災害への対応】

近年の想定を超えた異常気象や30年以内に高確率で発生する南海トラフ地震など様々な自然災害の危険性と隣り合わせである。

ハード整備はもちろんのこと、災害発生時に地域で適応する力をつける必要がある。

【山林、農地の荒廃】

過疎・高齢化による森の放置で、様々な森林生態系の崩壊が進んでいる。また、耕作放棄地の増加や農地の荒廃は、淡路島の生物多様性を支えている農地生態系の崩壊に繋がっている。

耕作放棄地面積の推移 (出典：農林業センサス)

H12(553ha) H17(1,019ha) H22(1,130ha) H27(1,332ha)

H12→H27:約2.4倍

【放置竹林の増加】

放置竹林の拡大により、保水能力・土砂崩壊防止機能の低下、生物多様性の低下、里山環境・景観の悪化、獣害被害の拡大など様々な影響が懸念される。

島内の竹林面積 (出典：日本森林技術協会)

市名	竹林面積	県内順位	市面積に占める竹林面積割合	県内順位
洲本市	1,032.22ha	3位	5.65%	2位
南あわじ市	258.39ha	13位	1.13%	22位
淡路市	1,369.47ha	2位	7.42%	1位
淡路島全体	2,660.08ha		4.50%	

【淡路島らしい景観、風景の喪失】

周囲を海に囲まれていることから発生する漂着ゴミや、観光客の増加に伴う観光ゴミ、また、空き家や耕作放棄地の増加によって淡路島らしい景観や風景が悪化。淡路島の自然、文化、歴史的背景を踏まえたまちづくりや景観保全が必要。

【通信インフラ】

インターネット環境が整備されていない地域が多数ある。デジタル化に対応し、淡路島で多様なライフスタイルを実現するために情報通信網の整備が不可欠。

【社会的孤立者の増加】

人口減少による地域や人とのつながりの希薄や単身世帯の増加などにより、社会的に孤立する人が増加。

【高齢者の孤立】

若者の島外流出による高齢者の単身世帯の増加に加えて、デジタル化による情報社会から取り残される高齢者が増加する恐れがある。

【自然災害への対応】

近年の想定を超えた異常気象や30年以内に高確率で発生する南海トラフ地震など様々な自然災害の危険性と隣り合わせである。

ハード整備はもちろんのこと、災害発生時に地域で適応する力をつける必要がある。

【山林、農地の荒廃】

生活様式の変化や石炭・薪炭から石油・ガスへの燃料革命によって里山林が放置され、森林の荒廃が進んでいる。また、過疎・高齢化に伴う耕作放棄地の増加によって農地の荒廃が進んでいる。淡路島の生物多様性を支える森林および農地生態系(農地およびその周辺の草地や陸水の環境と、そこに生息・生育する動植物等からなる生態系)の荒廃は、様々な生態系サービスの劣化に繋がることが懸念される。

耕作放棄地面積の推移 (出典：農林業センサス)

H12(553ha) H17(1,019ha) H22(1,130ha) H27(1,332ha)

H12→H27:約2.4倍

【放置竹林の増加】

放置竹林の拡大により、保水能力・土砂崩壊防止機能の低下、生物多様性の低下、里山環境・景観の悪化、獣害被害の拡大など様々な影響が懸念される。

島内の竹林面積 (出典：日本森林技術協会)

市名	竹林面積	県内順位	市面積に占める竹林面積割合	県内順位
洲本市	1,032.22ha	3位	5.65%	2位
南あわじ市	258.39ha	13位	1.13%	22位
淡路市	1,369.47ha	2位	7.42%	1位
淡路島全体	2,660.08ha		4.50%	

【淡路島らしい景観や風景の喪失】

周囲を海に囲まれていることから発生する漂着ゴミや、観光客の増加に伴う観光ゴミ、また、空き家や耕作放棄地の増加によって淡路島らしい景観や風景が悪化。淡路島の自然、文化、歴史的背景を踏まえたまちづくりや景観保全が必要。

【情報通信環境の高度化】

社会のデジタル化が進む中で、誰もがITの利便性を享受でき、多様な働き方やライフスタイルが実現できるよう、地理的な格差のない情報通信環境の整備が不可欠。

【社会的孤立者の増加】

人口減少による地域や人とのつながりの希薄や単身世帯の増加などにより、社会的に孤立する人が増加。

【高齢者の孤立】

若者の島外流出による高齢者の単身世帯の増加に加えて、デジタル化により情報社会から取り残される高齢者が増加する恐れがある。

【地域経済の衰退と就労場所の不足】

人口減少、少子高齢化を背景に、瓦・線香等の地場産業や地元商店の衰退、農業・漁業の後継者不足など地域経済の衰退が進んでいる。

また、島内の就職においては、淡路地域の有効求人倍率は県内の他地域と比べて高いものの、求人内容は福祉関係と観光業が半数を占めている。雇用のミスマッチにより就労が進まないことが、若者が淡路に帰ってこない大きな要因となっている。

【エネルギーの流出】

島内のメガソーラーの多くは、外部企業が地域外に送電するものであり、地域に還元される利益は大きくない。豊富なエネルギー資源を有しながらエネルギーが地域外に流出し続けている現状は、地域で自立した循環型社会の構築にとって大きな課題である。

【再生可能エネルギー発電設備の維持管理】

30年後は脱炭素社会に向けてさらに再生可能エネルギー発電設備が増加していると思われるが、同時に、再生可能エネルギー発電設備の老朽化による維持管理も課題となることが想定される。

【社会インフラの維持管理】

今後、上水道や道路、橋梁などの社会インフラが次々と寿命を迎える。ICTなどの新技術を活用しながらインフラの維持管理に取り組むとともに、行政の規模も小さくなることが予想されるため、選択と集中による順位付けも必要となる。

【交通基盤】

島内における公共交通の利便性は悪く、移動は自動車に依存。高齢者や学生など交通弱者にとって制約が大きい。地域モビリティの確保が重要。

また、明石海峡大橋や鳴門大橋を含む高速道路料金の低減化も交流人口拡大にとって大きな課題である。

【福祉の充実】

医療技術の発達や健康志向の高まりなどにより人生100年時代が到来する。同時に、高齢者の増加による認知症リスクの増大、現役世代の減少により支える側の人々が減少するなど、福祉の課題は深刻化。ICT化やロボット技術の導入、高齢者の生涯活躍、地域で支える仕組みの構築などが必要。

2020年の65歳以上の認知症有病率は16.7%(6人に1人が認知症有病者)
「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」

【地域経済の悪化と就労機会の不足】

人口減少や少子高齢化、生活の多様化を背景に、瓦・線香等の地場産業や地元商店を取り巻く環境は厳しさを増している。また、農林水産業の後継者・労働力不足は、地域経済に影響を落としている。

また、島内の就職において、淡路地域の有効求人倍率は県内の他地域と比べて高いものの、求人内容が医療・福祉と飲食サービス・宿泊業に偏っている。働き方や暮らし方の変化、求職者のニーズに対応した就労機会や雇用形態の確保が必要。

【エネルギーの有効活用】

島内のメガソーラーの多くは、外部企業が地域外に送電するものであり、地域に還元される利益は大きくない。豊富なエネルギー資源を有しながら、発電される再生可能エネルギーの地産地消が効率的に実現できていないことは、地域で自立した循環型社会の構築にとって大きな課題である。

【再生可能エネルギー発電設備の老朽化】

30年後は脱炭素社会に向けてさらに再生可能エネルギー発電設備が増加していると思われるが、同時に、再生可能エネルギー発電設備の老朽化(耐用年数経過後)による設備の更新・撤去も課題となることが想定される。

【社会インフラの維持管理】

今後、上水道や道路、橋梁などの社会インフラが次々と寿命を迎える。ICTなどの新技術の活用に加え、更なる選択と集中により、社会インフラの維持管理に取り組む必要がある。

【交通基盤】

人口減少や高齢化による集落の点在化に加え、ラストワンマイルの移動が大きな問題となっており、路線バスやコミュニティバスなど従来型の公共交通だけでは対応が困難になっている。

今後は、従来型に加え、地域による運送など多様な運送形態を組み合わせることで、移動ニーズにきめ細かく対応し、快適で住みやすいまちづくりを目指すことが重要である。

【福祉の充実】

医療技術の発達や健康志向の高まりなどにより人生100年時代が到来する。同時に、高齢者の増加による認知症リスクの増大、現役世代の減少により支える側の人々が減少するなど、福祉の課題は深刻化。ICT化やロボット技術の導入、高齢者の生涯活躍、地域で支える仕組みの構築などが必要。

2020年の65歳以上の認知症有病率は16.7%(6人に1人が認知症有病者)
「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」

第4章 淡路島がめざすビジョン

(仮)『 国生みの島・淡路国の独立 ～食いばぐれのない環境未来島へ～ 』

私たちの住む淡路島は、「国生みの島」「御食国」とも呼ばれ、歴史的ストーリーに富み、都市近郊の島という県内独自の立地環境にあり、豊かな自然環境、美しい景観、豊富な食など多くの地域資源に恵まれている。

歴史の中で育まれてきた淡路人形浄瑠璃を代表とする伝統芸能、地域の祭りなどの伝統文化、農漁業など産業の営みの豊かさ、人と人の濃密なつながりなど、淡路島が持つ個性豊かな資源を守り、育み、強みを活かし、自立できる島をめざす。

参考：各地域のスローガン（現時点）

【神戸】 みんなの希望にフィットするまち・神戸

【阪神】 コ・クリエーションなまちの実現
～住んでよし、働いてよし、集ってよし～

【東播磨】 水辺・ものづくりのまちでつながりワクワクする未来

【北播磨】 「田園」と「都市」が楽しめる“こちよ北播磨”

【中播磨】 多様な個性（ちいき）に、世界遺産（ひと）が輝く中播磨
～人がめぐり・活躍し・支え合う地域をつくろう～

【西播磨】 光と水と緑でつなぐ 元気・西播磨

第4章 淡路島がめざすビジョン

(仮)『 国生みの島・淡路国の独立 ～食いばぐれのない未来の島へ～ 』

私たちの住む淡路地域は、兵庫五国の一つであり、「国生みの島」「御食国」と呼ばれてきた歴史的ストーリーと、周りを海に囲まれた島という立地特性を有することから、淡路島を一つの『国』と位置づける。また、多様な資源に恵まれ、生活に必要な食料やエネルギーが自給できる豊かな環境を生かして、将来にわたって持続する地域をつくるという意味を込めて“地域の自立”を『独立』と表現する。

淡路島には、食料やエネルギーを生み出す温暖な気候や豊かな土壌、人と人の濃密なつながりが生み出す支え合いの精神と安心感がある。これらの淡路地域の魅力に加え、農畜水産業や伝統産業の維持発展、観光業の振興等によって稼ぐことで『食いばぐれない』島となることを目指す。

この結果、古事記・日本書紀に記された“はじまりの島”淡路島から、持続可能な地域の全国モデルとなる『未来の島』を発信する。

別案

- ①豊かな自然と人々の笑顔を守り届ける環境立島あわじ
- ②自然に支えられ人々が交流する環境立島あわじ
- ③環境と観光が両立する島・淡路
- ④豊かな自然と人々の笑顔が輝く“環境立島あわじ”
- ⑤自然と共に生きる島“環境立国あわじ”
- ⑥自然と人の環が広がる淡路島
- ⑦自然に惹きつけられる島・淡路

第5章 淡路新地域ビジョンの目標

前章で述べた島づくりを実現するために、5つの目標を掲げ、その実現に向けた島づくりを進める。

目標1 持続可能な暮らしと環境の島

- (1) 自然環境への配慮と地域資源を活用した脱炭素社会を実現し、企業立地の魅力が高まり経済が循環する。
- (2) 自動運転技術や多様な地域モビリティが普及し、自然の中でちょうどいい便利な田舎暮らしが実現することで、住み続けることができる島。
- (3) 情報インフラの整備と立地環境を活かした企業誘致が進み、地域産業が活性化するとともに、島内の雇用が拡大する。
- (4) 都市近郊の自然に恵まれた立地環境を活かし、「職・住・遊」がまるごと楽しめるワーケーションやリモートワークに最適な島になる。
- (5) 伝統文化や祭りなどが日々の暮らしの中で継承され、地域と人々がつながりを持ち続けることで、いつでも帰ってきたいと思える島になる。

目標2 食とエネルギーを自給自足する島

- (1) 趣味農業やワーキングホリデーと組み合わせた「援農」や週末だけ農業に携わる「ゆるやか農業」、農業法人による雇用就農など、多様な就農形態により多くの人が農業に関わり地域の農業が発展する。
- (2) 豊かな海の再生や漁業のスマート化、養殖技術の向上などにより漁業が発展し、国内外に誇れるおいしい魚が安定して島内で供給される。
- (3) 循環型農業やロボット技術・ICT等の先端技術を活用したスマート農業により、生産性の向上、新規就農者の増加、さらには農業技術が受け継がれ淡路島の産業の中心として持続的に発展する。
- (4) 家庭での太陽光発電や小風力発電、営農型太陽光発電など「誰もがエネルギーの生産者」となり、地域でエネルギーが循環する。
- (5) 食とエネルギーの地産地消により、生産者と消費者がともに支え合い、淡路の食や資源が大切にされる島になる。

目標3 危機や災害から生き残る島

- (1) 過去の災害の経験を活かした防災対策や、地域防災教育の浸透によって住民の防災意識が高まり、危機に備えられる安全な島になる。
- (2) 淡路地域が持つ「人と人」、「人と自然」の濃密なつながりを活かし、災害が起ころうとも隣保の絆やコミュニティの共助により災害に適応できる島になる。
- (3) 森・里・海が豊かに保たれ、グリーンインフラを活用した流域治水による防災・減災で誰もが安心して暮らせる島にする。
- (4) 食とエネルギーが自給自足でき、災害が発生しても島が孤立することなく適応できる災害に強い島にする。
- (5) 日本一の数を誇るため池の多面的機能を活かし、災害や水不足の危機に直面しても、誰もが水に困らない生活が出来る島にする。

第5章 淡路新地域ビジョンの目標

淡路島がめざすビジョンを実現するために、豊かな自然環境、美しい景観、豊富な食、農業など産業の営みの豊かさ、伝統文化、さらには人と人との濃密なつながりなど、個性豊かな資源を守り・育み・強みを活かした島づくりに向けて5つの目標を掲げる。

目標1 持続可能な暮らしと環境の島

- (1) 自然環境への配慮と地域資源を活用した脱炭素社会を実現し、企業立地の魅力が高まり経済が循環する。
- (2) 自動運転技術や多様な地域モビリティが普及し、自然の中でちょうどいい便利な田舎暮らしが実現することで、住み続けることができる島。
- (3) 情報インフラの整備と立地環境を活かした企業誘致が進み、地域産業が活性化するとともに、島内の雇用が拡大する。
- (4) 都市近郊の自然に恵まれた立地環境を活かし、「職・住・遊」がまるごと楽しめるワーケーションやリモートワークに最適な島になる。
- (5) 伝統文化や祭りなどが日々の暮らしの中で継承され、地域と人々がつながりを持ち続けることで、いつでも帰ってきたいと思える島になる。

目標2 食とエネルギーを自給自足する島 （食とエネルギー 地産地消の島）

- (1) 農業を手伝う「援農」や週末だけ農業に携わる「ゆるやか農業」、農業法人による雇用就農など、多様な形態により多くの人が農業に関わることで地域の農業が発展する。
- (2) 豊かな海の再生や漁業のスマート化、養殖技術の向上などにより漁業が発展し、国内外に誇れるおいしい魚が安定して島内で供給される。
- (3) 循環型農業やICT・ロボット技術等を活用したスマート農業により、生産性の向上、新規就農者の増加、さらには農業技術が受け継がれ淡路島の産業の中心として持続的に発展する。
- (4) 地域や家庭において、自然や景観に配慮した再生可能エネルギーの創出が進み、「誰もがエネルギーの生産者」となり、エネルギーが循環する島になる。
- (5) 食とエネルギーの地産地消により、生産者と消費者がともに支え合い、淡路の食や資源が大切にされる島になる。

目標3 危機や災害から生き残る島

- (1) 過去の災害の経験を活かした防災対策や地域防災教育の浸透、防災情報発信の充実などによって、住民の防災意識が高まり、危機に備えられる安全な島になる。
- (2) 淡路地域が持つ「人と人」、「人と自然」の濃密なつながりを活かし、災害が起ころうとも隣保の絆やコミュニティの共助により災害に適応できる島になる。
- (3) 森・里・海が豊かに保たれ、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラと流域治水による防災・減災の推進により、誰もが安心して暮らせる島にする。
- (4) 食とエネルギーが自給自足でき、災害が発生しても島が孤立することなく適応できる災害に強い島にする。
- (5) 日本一の数を誇るため池の多面的機能を活かし、災害や水不足の危機に直面しても、誰もが水に困らない生活が出来る島にする。

目標4 観光客、移住者をもてなす島

- (1) 山と海に囲まれた豊かな自然、美しい海岸線や淡路らしい田園風景、年中楽しめる豊かな食など、淡路島独自のポテンシャルを活かした観光を展開し、国内外から選ばれる地域になる。
- (2) 「国生み」や「御食国」などの歴史的ストーリーや淡路人形浄瑠璃・だんじり唄などの伝統芸能が観光に活かされ、地域の祭りや伝統文化に活気があふれ、地元住民と観光客のつながりや交流が活発になる。
- (3) 海上交通の発展や2次交通の充実・多様化により、国内外からも気軽に訪れることが出来るリゾートの島になる。
- (4) 価値観や多様性が理解され、昔から地域に根付いている「お互い様の精神」で移住者を受け入れる島になる。
- (5) 空き家は移住者にとって宝の山。移住者の住居や地域交流の場として活用が進み田舎らしい街並みの景観が守られ、人々の交流があふれる。

目標5 全ての人が誇りを持てる島

- (1) 高齢者の第二、第三のライフステージの活躍の場が広がり、いつまでもいきいきと暮らせる島にする。
- (2) 地域資源を活かした地域独自の教育や働くことを通じた学びの場など、個性を活かせる多様な教育の場が広がる。
- (3) 障害者や認知症患者、社会に適応出来ない人など全ての社会的弱者を地域で支え合える優しさがあふれる島にする。
- (4) 地域が子供の教育や成長に関わり、地域の中で地域を支える人が育つ。
- (5) 環境教育や体験学習を通じて島の豊かさを知り、誰もが地域に誇りを持ち、魅力を発信できる。

目標4 観光客や移住者をあたたかく迎える島

- (1) 山と海に囲まれた豊かな自然、美しい海岸線や淡路らしい田園風景、年中楽しめる豊かな食など、淡路島独自のポテンシャルを活かした観光を展開し、国内外から選ばれる地域になる。
- (2) 「国生み」や「御食国」などの歴史的ストーリーや淡路人形浄瑠璃・だんじり唄などの伝統芸能が観光に活かされ、地域の祭りや伝統文化に活気があふれ、地元住民と観光客のつながりや交流が活発になる。
- (3) 海上交通の発展や2次交通の充実・多様化により、国内外からも気軽に訪れることが出来るリゾートの島になる。
- (4) 価値観や多様性が理解され、昔から地域に根付いている「お互い様の精神」で移住者を受け入れる島になる。
- (5) 移住促進や地域、観光の交流拠点として空き家の活用が進み、田舎らしい街並みの景観が守られるとともに、関係人口が増加し、人々の交流があふれる地域になる。

目標5 全ての人が誇りを持てる島 (未来志向で誇り高き島)

- (1) 高齢者の第二、第三のライフステージの活躍の場が広がり、いつまでもいきいきと暮らせる島にする。
- (2) 地域資源を活かした地域独自の教育や働くことを通じた学びの場など、個性を活かせる多様な教育の場が広がる。
- (3) 障害者や認知症高齢者、社会に適応出来ない人など全ての社会的弱者を地域で支え合える優しさがあふれる島にする。
- (4) 地域が子供の教育や成長に関わり、地域の中で地域を支える人が育つ。
- (5) 環境教育や体験学習を通じて島の豊かさを知り、誰もが地域に誇りを持ち、魅力を発信できる。

第6章 目標の実現に向けた役割

ビジョンを実現するためには、個人・団体・企業・行政それぞれが役割を持ちながら、参画と協働により一体となってまちづくりに取り組むことが重要。

【住民・地域の役割】

- 住民自らが地域づくりの担い手として、ビジョンの実現に向けた取組みの推進
- 淡路島をより良い地域にし、次世代へつないでいくために、日頃から個人ができることを考え、行動する。

〈身近な取組みの例〉

- 地域行事や祭りなどに積極的に参加する
- 伝統芸能や淡路の歴史を学ぶ、伝える
- 自然や地域資源を大切にす
- ゴミを出さない生活をする
- 森、里、海の自然環境の価値をよく知り、価値を損なわない使い方をす
- エネルギーの消費を抑え、自然の豊かさが持続する暮らしを心がける
- 節水、節電を心がける
- 趣味を楽しむ
- 暮らしに自然エネルギーを取り入れる
- 地産地消を心がける
- 近所の人との関わりを持つ
- 家具の転倒防止や防災グッズを備える
- まちの清掃・防災活動に参加する
- 移住者と地域とのつなぎ役になる
- いじめや差別をしない、させない
- 困っている人を見かけたら助ける
- 他者を尊重する
- 世代を超えて集える場づくり
- 多世代間の交流を積極的に行う
- 地域で子供や高齢者の見守りをする
- 地元商店を活用する
- 地域の中で高齢者を支える人材を育てる
- 学校行事へ積極的に参加する
- 栄養バランスを考えた健康的な食事をする
- 徒歩や自転車での移動を心がける
- 自然の中で遊ぶ
- SNSで地域の魅力を発信する

【地域団体・企業の役割】

- 専門知識やノウハウを活用し、様々な住民を巻き込んだ活動の展開
- 住民同士をつなぐネットワークを構築し、自治組織の支援や住民主体となる活動のコーディネート
- 行政の政策づくりに積極的に参画し、協働によるまちづくりの推進
- 企業の持つ特色やノウハウを活かした地域づくりへの貢献
- 地域づくりに参加しやすい社内環境の整備

【行政の役割】

- 道路や河川の整備など地域づくりの基盤整備
- 地域を担う人材の育成
- 市民活動の支援、情報の提供、住民の行政への参加機会の提供など、住民主導の地域づくりのサポート役としての支援
- 多様な住民ニーズに対応した行政サービスの提供

第6章 目標の実現に向けた役割

ビジョンを実現するためには、個人・団体・企業・行政それぞれが役割を持ちながら、参画と協働により一体となってまちづくりに取り組むことが重要。

【住民・地域の役割】

- 住民自らが地域づくりの担い手として、ビジョンの実現に向けた取組みの推進
- 淡路島をより良い地域にし、次世代へつないでいくために、日頃から個人ができることを考え、行動する。

〈身近な取組みの例〉

- 地域行事や祭りなどに積極的に参加する
- 伝統芸能や淡路の歴史を学ぶ、伝える
- 自然や地域資源を大切にす
- ゴミを出さない生活をする
- 森、里、海の自然環境の価値をよく知り、価値を損なわない使い方をす
- エネルギーの消費を抑え、自然の豊かさが持続する暮らしを心がける
- 節水、節電を心がける
- 趣味を楽しむ
- 暮らしに自然エネルギーを取り入れる
- 地産地消を心がける
- 近所の人との関わりを持つ
- 家具の転倒防止や防災グッズを備える
- まちの清掃・防災活動に参加する
- 移住者と地域とのつなぎ役になる
- いじめや差別をしない、させない
- 困っている人を見かけたら助ける
- 他者を尊重する
- 世代を超えて集える場づくり
- 多世代間の交流を積極的に行う
- 地域で子供や高齢者の見守りをする
- 地元商店を活用する
- 地域の中で高齢者を支える人材を育てる
- 学校行事へ積極的に参加する
- 栄養バランスを考えた健康的な食事をする
- 徒歩や自転車での移動を心がける
- 自然の中で遊ぶ
- SNSで地域の魅力を発信する

【地域団体・企業の役割】

- 専門知識やノウハウを活用し、様々な住民を巻き込んだ活動の展開
- 住民同士をつなぐネットワークを構築し、自治組織の支援や住民主体となる活動をコーディネート
- 行政の政策づくりに積極的に参画し、協働によるまちづくりを推進
- 企業の持つ特色やノウハウを活かした地域づくりへの貢献
- 地域づくりに参加しやすい社内環境の整備

【行政の役割】

- 道路や河川の整備などの基盤整備
- 地域を担う人材の育成
- 市民活動の支援、情報の提供、住民の行政への参加機会の提供など、住民主導の地域づくりのサポート役としての支援
- 多様な住民ニーズに対応した行政サービスの提供